

## ドイツにおける家系研究と歴史学

平井進（小樽商科大学）

### (0) はじめに

- ・ドイツにおける家系研究の状況を概観し、歴史学との関係を考察。
- ・ Genealogie/genealogy: 家系研究。
- ・ 学問としての家系研究、特に学術手法としてのそれ（歴史補助学...）と家系の調査・研究が自己目的であるアマチュアの行為（「非学術的研究」、「趣味の家系研究」）。
- ・ 大学と大学外（民間）。
- ・ 1)（大学における歴史学を中心とする）学術的家系研究、2)（主にアマチュアによる大学外の）民間家系研究の展開、3) 2)の成果と歴史学（特に農村社会史）の関係。

### (1) 学術的家系研究

(1945 年以前)

- ・ 近世には歴史学者が家系研究に従事。16 世紀？ 18 世紀？
- ・ 18 世紀末に歴史学の研究手法として確立（J.C.Gatterer）。
- ・ 19/20 世紀転換期：遺伝学に触発され、歴史学者 O.Lorenz が歴史学、社会科学と自然科学の学際分野として学術的家系研究を提唱。
- ・ 1920-30 年代：人種研究に関わりながら、歴史学以外に自然人類学、遺伝学、医学、社会学、地理学も家系研究的手法を導入：人体測定と家族復元による歴史人口学を組み合わせる人口生物学・人種衛生学...
- ・ ナチス期
  - ・ 人種政策に貢献
    - ・ 全国 3 万か村の村落家系本（住民の家族復元本）作成計画（1937 年以降約 15,000 人動員、30 冊公刊）：人口生物学関係者が関与、マニュアル執筆。

(1945 年以降)

- ・ 多くの学問分野は家系研究的手法から撤退。
- ・ 歴史学では研究手法の 1 つとして存続。
  - ・ 歴史学入門書や歴史補助学の概説書。
  - ・ 関連研究の減少・郷土史の世界へ？

(現状)

- ・研究手法としての存在感の小ささ・不人気：歴史的評判、概念の古さ...
- ・それでも有効な研究領域も存在：エリート層研究、歴史人口学
- 
- ・手法からテーマへ：家系に関わる意識・行為、家系研究の歴史。

## (2) 民間家系研究

(19・20世紀初頭) 民間家系研究の成立・発展

- ・18世紀末には貴族の家系研究団体が存在、定期刊行物。
- ・1870年前後に非貴族、特に市民層を対象とする家系研究団体成立。
- ・20世紀初頭：4つの全国的家系研究団体、9つの全国的専門誌。
- ・1904年ドイツ個人史・家族史中央施設 **Zentralstelle für deutsche Personen-und Familiengeschichte** (民間研究・資料機関) の創設。歴史学者の協力、体系的研究方法の普及指導 (一般向きのガイド本の出版)。
- ・地方家系研究団体も成立。
- ・担い手は都市の市民層、特に教養市民層。

(ワイマール期) 担い手と対象の拡大

- ・全国のおよび地方家系研究団体の団体数・会員数増加、少なくとも8つの全国的専門誌、少なくとも19の地方的専門誌が加わる。
- ・担い手が下層中産層にも広がり。
- ・農村住民も対象に：農村聖職者による「民衆家系研究 **Volksgenealogie**」運動 (教区全体の家族復元)。

(ナチス期)

- ・家系研究団体は政府・党の統制下。
- ・村落家系本作成計画への関与：家系団体指導者が現地実務者に講習。

(1945年以降) 政治的・イデオロギー的背景を失い、さらに拡大。

- ・地方家系研究団体の増加。
- ・1988年電子データ処理家系研究促進協会設立 (→コンピューター家系研究協会 **Verein für Computergenealogie**)。
- ・現在ドイツ家系研究団体共同組織 **Deutsche Arbeitsgemeinschaft Genealogische Verbände** に72団体加入、計22,000人。さらにその外部に団体非所属者が存在。

#### (活動)

- ・史料：中心は教区簿冊（誕生・洗礼日と親、婚姻日・配偶者、死亡・埋葬日、さらに身分・職業、居住地・出身地、名親...）・民事登録簿。追加的に他史料（各種租税簿、遺言状、遺産分割書、債務台帳、契約簿...）。
- ・対象時期は 16 世紀以降 20 世紀まで。
- ・活動基盤：教会文書室・州教会文書局、公文書館、家系研究団体や地域史協会（会誌、研究会、web サイト）、専門ビジネス（ガイド本・史料・研究成果の出版、Starke 社・Degener 社）。
- ・成果発表：論文または書籍・CD で手稿（関係文書館へ）または公刊。

#### (成果)

- ・家系図（リスト）：祖先図 Ahnentafel と子孫図 Nachfahren-und Stammtafel。
- ・家族年代記 Familienchronik: 個別家系の所属者を祖先から子孫へ男系でたどり、世代ごとに各の情報（誕生か洗礼・死亡か埋葬・婚姻の日付・場所、配偶者、身分・職業、追加的に土地所有など財産）を記載。
- ・『ドイツ家系本 Deutsches Geschlechterbuch』：多数の個別家系の所属者（男子中心）の情報（生・没：婚姻日・場所、配偶者、身分・職業）を掲載、地方ごとに複数巻。対象家系の選択は執筆者の任意、都市名望市民層中心といた取りわれるが、農村住民も。1889 年以降 220 巻以上公刊。
- ・教区家系本（村落家系本 Dorfsippenbuch、町村家系本 Ortssippenbuch、町村家族本 Ortsfamilienbuch）：教区簿冊に記載される全員分のデータを整理（家族復元）して個人を姓・所属家族・生年順に配列。農村教区が多い。20 世紀初頭から作成、1998 年時点で（少なくとも）1,562 冊公刊。
- ・屋敷保有者簿 Hofrolle：村内の農民屋敷・その他住居の歴代保有者リスト、保有者の家系・配偶者情報。身分・職業・保有地規模の記載がある場合も。
- ・史料（教区簿冊、租税簿...）の活字化・公刊。

#### (デジタル化)

- ・ファイル形式 GEDCOM、家系調査ソフト。
- ・史資料の web 公開開始：州教会文書局等により教区簿冊...
- ・研究情報も成果も web 掲載：家系研究団体により教区家系本... Genwiki.

### (3) 民間家系研究の成果と歴史学

- ・民間家系研究に対する歴史学のまさざし
  - ・ディレクティブイズムと史料批判の欠如。「学問的家系研究は『家族史』と呼ばれる素人の遊び場と同じではない」、Barndt(1958)....(2007)。

- ・教区家系本：1945 年以降「信用喪失」・「タブー化」、家系研究者以外忘却、Böser(1985)など。
- ・対象地域の名望家族の事例のため『ドイツ家系本』や家族年代記の個別情報を参照することは早くからみられる：例えば、16-18 世紀の領邦議会議員について Wiemann(1975)。
- ・本格的・体系的な利用は決して多くない。
  - ・『ドイツ家系本』
    - ・内容紹介・史料的价值の評価: Köllmann(1974); Imhof(1990)。
    - ・体系的な利用：わずか、人口史・歴史人口学関係のみ。
      - ・18-20 世紀の 1 地方（州）の 49 家系から個人データを取り出して集計、職業・階層別の出生率・初婚年齢・死亡率：Neil(1973)。
      - ・18-19 世紀の 1 都市の死亡率・余命：Imhof(1990)。
  - ・教区家系本
    - ・内容紹介・史料的价值の評価: Köllmann(1974); Knodel(1975), (1988); Knodel/Schorter(1976); Imhof(1977), (1990); Böser(1985)。
    - ・長らくほとんど外国人歴史人口学者のみ：Knodel(1968)...(1988); Houdaille(1970); Imhof(1990)など。Shorter(1972)も。
      - ・18-19 世紀の 5 地域 14 教区の死亡・婚姻・出生関係：Knodel(1988)。
      - ・17-19 世紀の 5 地域 51 教区の死亡率・余命：Imhof(1990)→村山(2020)。
    - ・1990 年代以降ミクロ史的な農業史・農村社会史研究の一部でも。
      - ・16-18 世紀の 4 教区の歴史人口学的部分に利用: Maisch(1992)。
      - ・データベース作成の素材の 1 つとして利用、他史料とリンクさせ、19 世紀の 3 教区の土地移動、18-19 世紀の 2 教区における階層の再生産の検証: G.Fertig(2007); C.Fertig(2012)。
  - ・屋敷地保有者簿
    - ・17-19 世紀の 4 教区の農民の屋敷・農地相続年齢と婚姻圏: Lorenzen-Schmidt(2001), (2003)。
    - ・同時期・同地域の農民家系と屋敷・農地の結びつき: Jakubowski-Tiessen(2005)。
  - ・家族年代記
    - ・複数利用して 17-18 世紀の 1 地方の大農家族の相続・婚姻の多数の事例

を分析、 Cronshagen(2014)。

・ 2次史料としての可能性

- ・ 多数の事例の把握が容易、特に教区家系本や屋敷地所有者簿では集計により全体的傾向やその変化の把握が比較的容易。
- ・ 特に教区家系本では地域間・地方間比較が可能。
- ・ 教区間の移動の把握可能性。

- ・ 課題：研究成果の蓄積は年々増加、web公開も進展しているが、
- ・ 史料としての吟味と選択：内容は元史料に制約、信頼度、代表性。
- ・ (1次史料も含む) 他史料とのリンケージ。 データベース構築。

(4) 結び

- ・ 歴史補助学(手段)としての存続(不人気)、他方でアマチュアの趣味的活動(自己目的)としての発展・興隆という対照。両者の距離・乖離。
- ・ 後者の成果の前者にとっての有用性とその課題。

・ 2021年11月ハレ大学の歴史家 G.Fertig がコンピューター家系研究協会の会長就任。両者の距離は縮まるか。

(参照文献)

Böser, Wolfgang(1985): Ortssippenbücher: Erschließung einer genealogischen Sekundärquelle für die Sozialgeschichtsforschung, in: Blätter für deutsche Landesgeschichte, Neue Folge, Bd.121, S.1-48.

Brandt, A.von(1958): Werkzeug des Historikers: Einführung in die Historischen Hilfswissenschaften, Stuttgart.

Ders.(2007): Werkzeug des Historikers: Einführung in die Historischen Hilfswissenschaften, Stuttgart, Elfte, ergänzte Auflage.

Cronshagen, Jessica(2014): Einfach vornehm : die Hausleute der nordwestdeutschen Küstenmarsch in der Frühen Neuzeit, Göttingen.

Ehrenreich, Eric(2007): The Nazi ancestral proof : genealogy, racial science, and the final solution, Bloomington and Indianapolis.

Fertig, Christine(2012): Familie, verwandtschaftliche Netzwerke und Klassenbildung im ländlichen Westfalen (1750-1874), Stuttgart.

Fertig, Georg(2007): Äcker, Wirte, Gaben : ländlicher Bodenmarkt und liberale Eigentumsordnung im Westfalen des 19. Jahrhunderts, Berlin.

Der./Guzzi-Heeb(Hg.)(2022): Genealogien: Zwischen populären Praktiken und akademischer Forschung(Jahrbuch für Geschichte des ländlichen Raumes 2021), Innsbruck/Wien.

Fink, Bertam(2022): Genealogische Praktiken im Archiv, Verein und Internet: Die Access-Revolution der Computergenealogie und ihre Folgen, in: Hecht/Himm(2022), S.321-354.

Hecht, Michael(2021): Genealogie zwischen Grundwissenschaft, populärer Praxis und Forschungsgegenstand: interdisziplinäre Perspektiven, in: Doublier, Etienne(Hg.), Die Historischen Grundwissenschaften im Spannungsfeld zwischen Interdisziplinarität und Profilierung, Köln, S.73-93.

Ders./Timm, Elisabeth(Hg.)(2022), Genealogie in der Moderne: Akteure - Praktiken – Perspektiven, München.

Heil, Kartin(2022): Die Zentralstelle für deutsche Personen-und Familiengeschichte 1904-1967: Eine Leiziger Institution im Wandel, in: Hecht/Himm(2022), S.211-244.

Houdaille, Jacques(1970): Quelques résultats sur la démographie de trois villages d'Allemagne de 1750 à 1879, in: Population, 25e année, n°3, 1970. pp. 649-654.

Imhof, Arthur E.(1977): Einführung in die Historische Demographie, München.

Ders.(1990): Lebenserwartungen in Deutschland vom 17. bis 19.Jahrhundert, Weinheim.

Jakubowski-Tiessen, Manfred(2005): Das Leben an der Küste: Eigenheiten einer bäuerlichen Gesellschaft, in: Döring, Martin(Hg.): Küstenbilder, Bilder der Küste : interdisziplinäre Ansichten, Ansätze und Konzepte, Hamburg, 161-180.

Klocke, Friedrich von(1950): Die Entwicklung der Genealogie vom Ende des 19. bis zur Mitte

des 20. Jahrhunderts : Prolegomena zu einem Lehrbuch der Genealogie, Schellenberg bei Berchtesgaden.

Knodel, Johan E.(1968): Infant mortality and fertility in three Bavarian villages: an Analysis of family histories from 19th Century, in: Population Studies 22, S.297-318.

Ders.(1975): Ortssippenbücher als Quelle für Historische Demographie, in: Geschichte und Gesellschaft, Jg.1, Heft/2/3, S.288-324.

Ders.(1988): Demographic behavior in the past: A study of fourteen German village populations in the eighteenth and nineteenth centuries, Cambridge.

Ders./Shorter, R.(1976): The reliability of family reconstruction data in German village: Genealogies(Ortssippenbücher), in: Annales de demographie historique, 1976, pp.115-154.

Köllmann, Wolfgang(1974): Bevölkerung in der industriellen Revolution: Studien zur Bevölkerungsgeschichte Deutschlands, Görtingen.

Lorenz, Ottokar(1898): Lehrbuch der gesamten wissenschaftlichen Genealogie. Stammnbaum und Ahnentafel in ihrer geschichtlichen, sociogischen und naturwissenschaftlichen Bedeutung, Berlin.

Lorenzen-Schmidt, Klaus-J.(2001): Generationswechsel, Vererbung und Heiratsverhalten der bäuerlichen Bevölkerung in den holsteinischen Elbmarschen 1650-1950, in: Rheinheimer, Martin(Hg.): Der Durchgang durch die Welt : Lebenslauf, Generationen und Identität in der Neuzeit, S. 103-123.

Ders.(2003): Bäuerliches Heiratsverhalten und Stellenübertragung in den holsteinischen Elbmarschen (1650-1950), in: Historische Sozialforschung, Bd.28, S. 76–91.

Maisch, Andreas(1992): Notdürftiger Unterhalt und gehörige Schranken: Lebensbedeutungen und Lebensstile in württembergischen Dörfern der frühen Neuzeit, Stuttgart/Jena.

Neil, Adelheid von(1973): Die Entwicklung der generativen Strukturen bürgerlicher und bäuerlicher Familien von 1750 bis zur Gegenwart, Bochum.

Pinwinkler, Alexander(2022): Von der “Genealogie” und “Sippenkunde” zur “Bevölkerungswissenschaft”? Disziplinbildung und Institutionalisierung am Rande der deutschen Geschichtswissenschaften, ca.1900-1960, in: Fertig/Guzzi-Heeb(2022), S.84-105.

Rohr, Christian(2015): Historische Hilfswissenschaften: Ein Einführung, Wien/Köln/ Weimar.

Schlumbohm, Jürgen(2022): Familienrekonstitution *avant la lettre*: Volksgenealogie und historische Demographie im Kontext von völkischer Wissenschaft, Rassenkunde und Rassenpolitik, in: Fertig/Guzzi-Heeb(2022), S.106-136.

Scheide, Walter(1932): Bevölkerungsbiologie der Elbinsel Finkenwärder (Deutsche Rassendekunde, Bd.10/Niedersächsische Bauern, II), Jena.

Schmuhl, Hans-Walter(2008): Familiengeheimnisse: Genealogie, Rassenforschung und Politik in Deutschland, 1890-1939, in: Olaf, Hartung(Hg.): Geschichte und Geschichtsvermittlung: Festschrift für Karl Heinrich Pohl, Bielefeld.

Shorter, Edward(1972): Sexual change and illegitimacy: the European experience, in: Harvey, Edward B.(ed.): Perspectives on modernization : essays in memory of Ian Weinberg, Toronto and Buffalo, pp.106-136.

Teicher, Amir(2014): “Ahnenforschung macht frei”: On the Correlation between Research Strategies and Socio-Political Bias in German Genealogy 1898-1935, in: Historische Anthropologie, Jg.22, Heft 1, S.67-90.

Weiss, Volkmar(2013): Vorgeschichte und Folgen des Arischen Ahnenpasses, Neustadt an der Orla.

Ders./Münchow, Katja(1998): Ortsfamilienbücher mit Standort Leipzig in Deutschen Zentralstelle für Genealogie(2.erw.Aufl.), Neustadt/Aisch.

Wiemann, Harm(1975): Die Bauern in der ostfriesischen Landschaft im 16. - 18. Jahrhundert, in: Franz, Günther(Hg.): Bauernschaft und Bauernstand: 1500 – 1970, Limburg(Lahn), S.154-164.

Wozniak, Thomas(2020): Zum Stand der Genealogie und Genetik in der



Geschichtswissenschaft, in: Archiv für Diplomatik, Bd.66, S.295-330.

村山聡（2020）「近代に向かう人口と環境：ヨーロッパ、特にドイツを中心に」秋田茂・脇村孝平（編）『人口と健康の世界史』ミネルバ書房。

**（参照リンク）**

Deutsche Arbeitsgemeinschaft Genealogische Verbände: [https://dagv.org/?Die\\_DAGV](https://dagv.org/?Die_DAGV)

Verein für Computergenealogie: <https://dagv.org/>